

## 「東日本大震災 災害活動報告」

仙台市宮城野消防団 団長 福来 隆



### 1 管内被害状況

仙台市宮城野消防団は、仙台市の東部に位置する宮城野区を管轄している消防団で、7分団、408名の団員で構成されています。(平成23年3月11日時点)

管内は人口約18万人、開発整備の進む仙台駅東地区から仙台港にかけて広がる62km<sup>2</sup>のコンパクトなエリアながら、市街地、住宅地、商業、工業地域や田園地帯など様々な表情をもっています。

平成23年3月11日(金)14時46分に発生した大震災はマグニチュード9.0、断層が450kmにわたり動くという国内観測史上最大級の巨大地震となりました。宮城野区においても最大震度6強を観測し、これに伴う大津波が押し寄せ、仙台港石油コンビナート地区や沿岸部の住宅地、水田地帯が



田園内の瓦礫を取り除きながらの搜索活動

飲み込まれ、浸水面積が20km<sup>2</sup>に及ぶ壊滅的な被害を受け、300名を越す尊い命と多くの財産が奪われました。

当団においても津波避難広報、救助活動中に2名の団員が殉職し、さらには機械器具置場4棟、積載車5台が流失するなど多大な被害を受けました。

### 2 活動内容

地震は、JR高砂駅前のビル内で会議をしていた時に発生しました。

これまで感じたことのないような揺れで、昭和53年の宮城県沖地震(震度5)の時よりもはるかに大きいと感じました。揺れは3分以上続き、宮城野区は震度6強を観測しました。すぐに自家用車で自宅に向かいましたが、信号は全て停止し、橋の段差やマンホールの隆起がいたるところで発生しており、普段なら5分で着く距離ですが、30分ほど要しました。途中、ラジオからは地震の被害状況と併せて、三陸沿岸へ大きな津波が来襲したというニュースが流れていました。仙台では近年、大きな津波に襲われたことがなかったため、三陸沿岸とは違って大きな津波は来ないだろうと思っていたところが少なからずありました。



津波により流失した消防団車両

自宅に到着すると、倒壊こそしていませんでしたが、壁体が落下するなど家屋は大きなダメージを受けていました。幸い家族に怪我はありませんでした。家のことを妻に任せ、宮城野消防署内にある消防団本部に参集するために外に出ようとしたところ、10mの津波が仙台港に到達したとラジオから聞こえてきました。自宅は海岸から5 kmほど離れた場所にあるので、海岸付近の津波の状況はわかりませんでした。近くを流れる七北田川は海から逆流してきた水が堤防から越えそうな勢いで流れ、下流から民家までも押し流されてくるのが見え

ました。「海岸付近の住民たちは大丈夫だろうか？活動している消防団員は大丈夫だろうか？」と大きな不安が過ぎりました。

夜8時ごろ、消防団本部に連絡が取れない団員が多数いるとの情報が入り、不安はますます募りましたが、携帯電話が通じないことや、冠水やガレキの障害で津波浸水区域に進入できないことで、団員の安否を確認することはできませんでした。

翌日、日の出とともに消防職員と団員が共同して津波浸水区域の本格的な救助活動を開始しました。開始早々、浸水区域で津波に流され大破した消防団積載車が相次いで発見されました。しかし、この時点で団員の姿は確認できませんでした。その後、行方不明の団員は3名であるという報告を受けました。

団員たちは自らも被災者であるにもかかわらず一人でも多くの命を助けるため、全団員が一丸となり、津波被災地の最前線で人命救助や捜索活動を続けました。行方不明となっていた団員が発見されたのは、発災から2週間経過した3月30日でした。発



消防団による消火活動



検索活動のため集合した消防団員

見されたとき消防団のヘルメットを被ったままの状態でした。その姿を見たとき、最後の最期まで消防団員として地域の住民を守ろうとした心意気を痛感いたしました。さらに4月に残りの団員が発見され、結果として2名の団員が殉職し、1名の団員が自分の仕事に津波で流され死亡し、3名の団員を失うこととなりました。

### 3 団長からのメッセージ

平成23年4月1日、震災活動の最中ではありましたが、消防団長を命ぜられました。この未曾有の災害の中、消防団活動をまとめ、さらには、被災した分団を立て直すことができるだろうかという不安はありましたが、災害活動は待たないであり、この時期に団長に就任するというのも何かの運命だと思い団長としての活動を始めました。団長としての初めての仕事は、殉職した団員に対する焼香でした。遺族と対面したとき、殉職という事の重大さ、団長としての責任の重さをあ

らためて思い知らされました。

今回の震災（津波）において、将来を嘱望された3名の団員の命が奪われ、更には多くの消防車両及び機械器具置場を失うという大きなダメージを残しました。しかし、失ったものばかりではありません。消防団員の「絆」、「郷土を守る誇り」というものをより強固にしたと確信しています。

これからは、宮城野消防団の伝統と殉職した団員の思いを胸に地域の復興とともに、被災した分団を再生させ、郷土を守っていきたいと思います。

最後になりますが、仙台市そして宮城野消防団は震災当初から全国各地から、ご支援、ご協力、更には救援物資や義援金など、多くのあたたかい援助を賜りました。このご恩は決して忘れることがあってはならないと考えております。仙台市はゆっくりとではありますが、着実に復興に向けた歩みを進めております。全国の関係者皆様から御礼申し上げ、活動報告とさせていただきます。



岡田地区の被災状況